

三鷹市立東台小学校 令和5年度【国語科】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>【課題】 ○漢音、半漢音、拾音の指導に学習の必然性を理解する機会が少ない。 ○時限の制約から短文作りをする機会が少ない。 ○音読練習でグループワークをする機会を設けることができたが、話し合いや感想、意見の交換を行うなどのグループワークやペアワークを行う機会がなかった。 【授業改善策】 ○教科書の学習を基本として、プリントやワークシートに児童の興味・関心を高める手立てを講ずる。 ○授業中に個人で言葉集めをして、ペアやグループで伝え合う時間を取り入れる。</p>	<p>【現状】 ○ひらがなの学習で、拾音、拾長音、拾促音、促音などの音の文字化の区別ができていない。 ○「は」「へ」「を」を間違えてしまう児童がいる。 ○物語文、説明文の区別を知り、内容を読み取ることができるようになってきた。 ○物語文の登場人物、場所など設定を覚えることができた。 【課題】 ○拾音、拾長音、拾促音、促音の使い方を繰り返し学習して習得できるようにする。 ○はじめ、中、終わりの段落を意識して文章を書けるようになる。 ○カタカナ、漢字などしっかりと覚えられようとしたい。</p>	<p>【指導方法の課題】 ○主題や感情を考えながら、文章を構成できるように指導が徹底できていない。 ○習った漢字やカタカナを使って文章を書けるように指導が定着できていない。 ○構成できていないことも正しく学習して、書きたい文章を楽しみながら書けるような意欲が高まっていない。 【授業改善策】 ○クラス全体で、文章の書き方を復習する時間を設けて、確認しながら学習をすすめる。 ○どんな読み方をすればいいか、良い例を聞くことで、意欲的に書く意味を共有しながら、学習する。 ○ワークの作成を促して、点、丸、線、かきかきなどを正しく使えるように文章を書く度に反復学習する。</p>
第2学年	<p>【課題】 ○文章やテキストの問題文の内容を把握できないことで点数に結びつかない。 ○思ったこと、考えたことを言葉にして発表することができず、文章で表すことが難しい。 【改善策】 ○書き出しを示すことで、読ませられるようにする。 ○関心のある漢字を教頭繰り返し返し、点検がとれることで意欲をもてるようにする。 ○教科書の文章から、答えを導けるように穴あき問題で取り組む。 ○学習内容に興味をもてるように、ヒントを穴あき問題、関わりがある内容を示したりする。</p>	<p>【現状】 ○はじめ、中、終わりの構成を意識した文章を書くことができていない児童が多い。 ○物語文や説明的文章の教材では、本文の叙述から登場人物の心情を読み取ったり、接続語に注目して段落相互の役割を読み取ることができた。 ○読んだことは、自分の言葉で自分の口で、態度面の工夫をすることができた。また、聞くことは、大事な言葉だけをメモするなど、要点を聞き取ろうとする姿が見えられた。 【課題】 ○学習能力が低く、漢字や音読の知識が定着していない。 ○聞き手を意識した話し方の能力が低い。 ○授業への主体的な参加率がおよそ80%であり、読む・書くの基礎・基本の定着の遅れが目立つ。</p>	<p>【指導方法の課題】 ○既習の漢字を作文などで活用する機会が少なく、漢字の読み書きが定着していない。 ○児童の宿題である音読に読む必然性を考えることができていないため、表現力が高まっていない。 【授業改善策】 ○既習の漢字を使ったミニ作文を書かせる学習を取り入れて、また、週末には給食家庭学習として出し、漢字を活用する機会を多くする。 ○ペアやグループ型の学習を生かし、決まりの読み取りの課題を与え、音読の宿題を読むことで必然性を高める。</p>
第3学年	<p>【課題】 ○漢字を使って作文をしたり、漢字を使った文章の読み書きをしったりする機会が少ない。 ○文章を順序立てて書いたり、まとめるための文章の指導が不十分であった。 ○どのように漢字を使えば登場人物の気持ちや表現の工夫が伝わるかが必要である。 【改善策】 ○既習漢字についても復習できるように漢字の一字を提示したり、音読を通して、手紙や短歌を書く機会を増やす。 ○初めは漢字を書くときや漢字の意味のよきよきの際、ワークシートやカードに「はじめ」「中」「終わり」の枠を作り、短い説明文や感想などを書けるよう指導する。 【補充】 ○カードや付箋に短い文章を書き、組み合わせる文章を併せよう指導する。 ○それぞれの感情によってどんな声の大きさ、スピード、高さがいかが考えられるよう指導する。</p>	<p>【現状】 ○説明的文章では、問われている内容や、大事な事柄を捉えることができた。 ○物語文では、叙述をもとに内容を整理し、分かったことを音読で表現することができた。 ○文章を根拠として自分の考えをもつことができた。 ○伝えたいことが相手に伝わるように文章を組み立てることが難しい児童が多い。 ○読んだことは、自分の言葉で自分の口で話さないことがある。 ○漢字の定着には個人差があり、文章を書く際に学習した漢字を活用できない児童がいる。</p>	<p>【指導方法の課題】 ○思ったこと、考えたことを言葉にして発表することや、文章で表すことの意識が十分でなかった。 ○相手に伝わるように文章を組み立てて話したり書いたりする指導の工夫が必要である。 ○学習した漢字を活用することができていない。 【授業改善策】 ○相手を意識して文章を書いたり話したりできるようにグループで話し時間を設けたり、書いたものを読みあわせたりする機会を多くする。 ○漢字の読み書き指導の際に既習漢字を使って書くように指導を行う。</p>
第4学年	<p>【課題】 ○文章の意図や構造や構造点を意識しながら読むことの指導が不十分であった。 ○伝えたいことを意識して文章を書きたい気持ちをしりすることが少なく、不十分であった。 【授業改善策】 ○「書き」を取り入れたら、他者の発言を聞いて自分の発言の意図や構造を振り返る。 ○「聞く」ことの動機付けを図る。 ○必要なことをメモしたり質問したりしながら聞くよう指導する。</p>	<p>【現状】 ○新出漢字について興味をもち、漢字の書き方や使い方の理解が深まっていた。 ○物語文では、叙述をもとに内容を整理し、分かったことや文章の伝えたいことを読み取ることができた。 ○物語文では、中心人物の気持ちや場面ごとに考え、登場人物の心情を読み取ることができた。 ○順序立てて文章を書くことや、要点を明確にして説明することが難しい児童が多い。 ○文章の定着は児童によって差が大きい。</p>	<p>【指導方法の課題】 ○自分の考えを書く機会や、考えを伝え合う時間が少なかった。 ○自分の考えをまとめる、順序立てて書くための指導が不十分であった。 【授業改善策】 ○授業後の振り返り等、短い文章を書くことを習慣化し、自分の考えを書く機会を設ける。 ○授業中にペアやグループで考えを伝え合う時間を取り入れる。</p>
第5学年	<p>【課題】 ○文章を書く際の指示や、注意点を一貫して行うことができていなかった。 ○文章モデルを提示することが少なく、不十分であった。 【授業改善策】 ○現在進んでいる考えの時間の確保と合わせて、自分の考えの書き方を指導、評価をする。 ○取り扱う語句の意味理解や使い方の指導を強化し、児童が読書を楽しむことができるように指導する。</p>	<p>【現状】 ○全学年の調査の結果での正答率は70%であり、全国の正答率より3%ほど高い。漢字や音読に関する知識及び技能は高い傾向にある。しかし、「書くこと」や「読むこと」に関する記述式の課題の正答率が低い傾向となった。 ○「読むこと」においては、説明文で文章全体の構成を理解し、行かれている事象や事象と関連付けながら、筆者の主張を読み取ることができた。 ○自分の意見や考えを書く活動では、書ける児童や書けない児童の差が大きい。書ける児童も持っている児童は、書けたことをメモ程度で書き表すも難しい。 【課題】 ○自分の意見や考えをもちながら、文章を読むことが苦手な児童が多い。 ○自分の考えや意見を詳しく書き表そうとする意欲が低い児童が多い。</p>	<p>【指導方法の課題】 ○「書くこと」の活動が少なく、接続語の使い方がわからない。また、習った漢字を文章で使うことができるような指導が徹底できていない。 ○個人で考えの時間が多く、友達と意見交流する時間が少なかった。 【授業改善策】 ○文章で交流する時間を確保した授業展開をする。 ○相手や目的に応じて書き方を工夫し、自分の思いや考えを効果的に書き表す力を引き出す授業展開をする。</p>
第6学年	<p>【課題】 ○「書くこと」を通しての表現力が低く、丁寧に書けるよう指導が不十分であった。 ○自分の考えをまとめる時間を必ず確保し、自力解決できるように授業改善していく。その中で必要に応じて、自分の考えをまとめる状態での問題解決を行うことでより学習が定着していく。 ○国語の用語を系統的に理解していくことで、次の学年でも活用できる国語の力を身に付けさせる。</p>	<p>【現状】 ○全学年の調査の結果での正答率は70%であり、全国の正答率より3%ほど高い。漢字や音読に関する知識及び技能は高い傾向にある。しかし、「書くこと」や「読むこと」に関する記述式の課題の正答率が低い傾向となった。 ○「読むこと」においては、説明文で文章全体の構成を理解し、行かれている事象や事象と関連付けながら、筆者の主張を読み取ることができた。 ○自分の意見や考えを書く活動では、書ける児童や書けない児童の差が大きい。書ける児童も持っている児童は、書けたことをメモ程度で書き表すも難しい。 【課題】 ○自分の意見や考えをもちながら、文章を読むことが苦手な児童が多い。 ○自分の考えや意見を詳しく書き表そうとする意欲が低い児童が多い。</p>	<p>【指導方法の課題】 ○自力解決の時間はないが、自分の考えや意見をまとめる児童は解決できていない。また、自分の考えをまとめる意欲にもつながっていない。 【授業改善策】 ○自分の考えをまとめる時間を必ず確保し、事前に友達と考えを交流するなど、自力解決できるように授業改善をしていく。 ○自分の考えを明確にして交流させる機会を多く設定し、正確に伝えるために必要な事柄を、書いたり話したりできるようにする。 ○既習学習等一人ひとりの課題にあった課題を設定し繰り返し学習を取り組むことができるようにする。</p>
このほか	<p>【課題】 ○単なる事象把握と個々の課題に応じた教材の工夫が必要である。 ○国語の発展の機会に応じた指導内容を個別にできるようにする。 ○個に応じた指導をすすめてきたが、児童の中にはまだ漢字の定着ができていない児童もいるので、引き続き指導が必要である。 【授業改善策】 ○「読書」「書き」「話す」の三つの課題を2つのグループでもって、担任間で教材教具の共有をしたり、評価をもつたりすることで、個別の課題に沿った内容を提供できるようにする。 ○自分の考えを聞いて、自分の考えをもてるように、すべての国語力の元となる聞く力を高める指導内容や支援、かわりをする。児童の発達段階や能力に合わせた指導内容を話し合い、課題提示したりするなど、教師の話し合いを工夫する。 ○授業準備に、作文の課題を出したり、スピーチの内容の提供をもめたりして、自分のことを伝える機会を伸ばし、語彙の拡充を図る。</p>	<p>【現状】 ○単なる事象把握と個々の課題に応じた教材の工夫が必要である。 ○国語の学習時間だけでなく、給日記や日誌など生活に即した場面で、学習が定着できるように指導している。 ○絵本の読み聞かせも定期的に行い、話の要旨を読み取る習慣を身につけている。 【課題】 ○語彙が乏しく、自分の思いや考えを文章や言葉で表現することが難しい。 ○自分の考えを詳しく書くことが難しい児童が多い傾向で、書くことが難しい児童は「割合」程度で、自分の考えを伝えたいのか話の要旨を理解することが難しい児童が多い傾向である。</p>	<p>【指導方法の課題】 ○児童の発達段階の把握と、個に応じた段階的な支援の工夫。 ○児童が意欲をもって学習に取り組むことができるような指導法の工夫。 ○児童に応じた課題設定 ○児童が繰り返し学習を行うことができるようにする学習場面設定。 【授業改善策】 ○担任間で教材教具を共有したり、評価し合ったりすることで、個に応じた支援を行うことができるようにする。 ○生活に即した場面で、児童の学習段階に応じて、適切な課題を設定し、意欲的に学習できるようにする。 ○児童に相手意識や目的意識を明確にした上で、「やってみたい」という気持ちをもてるようにする。また、その過程を通して、身に付けさせたい知識・能力が身に付けられるよう単元を構築する。 ○既習学習等一人ひとりの課題にあった課題を設定し繰り返し学習を取り組むことができるようにする。</p>